

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会
7/11 日
ベルブホール

ジュリー・ベルトゥチェリ監督



違ってたっていい。
違ってるとからいい。

24人の生徒、
20の国籍、
24のストーリー



[上映スケジュール]

- ① 10:30 - 11:59
トーク (11:59 - 12:35)
- ② 13:00 - 14:29
(音声ガイド付き)
トーク (14:29 - 15:05)
- ③ 16:00 - 17:29
- ④ 18:00 - 19:29

前売 大人(中学生以上) 1,000円
当日 大人(中学生以上) 1,200円
子ども(4歳~小学生) 600円

* TAMA 映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者1名は当日600円です。

[ゲスト] 出口 雅子 氏

「ピナット~外国人支援ともだちネット」非常勤職員。1980年代後半にフィリピン留学し、帰国後ピナットの立ち上げにボランティアとして参加。1995年より非常勤職員。主に国際理解教育や子ども学習支援、赤ちゃんのいる外国人ママの交流などを担当。特定非営利活動法人 多文化共生センター東京と公益財団法人 武蔵野市国際交流協会にてタガログ語通訳ボランティアも行なっている。

企 画 者 か ら の メ ッ セ ー ジ

本作の子どもたちは喧嘩しようが憎まれ口叩こうが、ほんとにかわいい！彼ら彼女らがこれからもずっと生きぬいて夢をかなえられたら…さて日本では…？と3月に大阪で観た時に思いました。

障がいを持つ子、地方出身の子、外国とつながる子…小さいいざこざがあっても誰も加害者にも被害者になることなく、尊重し合い一緒に学びともに生きていく日本にできたらどんなにいいだろう。ではそのためには…？

三鷹・むさしので20年以上支援を続けてこられているピナットの出口雅子さんの上映後のトークなどからそのヒントが得られたらと思います。

また本作は川崎市多摩区の柘形中学校の生徒さんたちが音声ガイドをつけました。その意義もお感じいただければ嬉しいです。

(越智 あい)

言葉やジェスチャーを駆使して意見や想いを伝え合うことが相互理解につながる様子を描いた『バベルの学校』は、日本で生活する私たちにいくつものことを教えてくれます。

社会・コミュニティの共通言語(フランスにおいては英語でなくフランス語!)を正しく学ぶことは、そこにある歴史や伝統に触れることであり、生活するうえで必須の技術なのでしょう。

先生と生徒たちのやりとりから、多少の摩擦はありながらも多くの移民を受け容れているフランス社会の寛容さと誇りのようなものを感じます。それは、絶対君主制から革命期をへて共和制国家となり、二度の世界大戦を経験した歴史と結びついている、よくいう愛国心とは少し異なるものではないでしょうか？

翻って日本の現状はどうでしょう？私はなんとなく、最近の言論の府で発せられている言葉には虚しさを感じていますが…。(山口 渉)

6/6(土)
特別上映会
レポート

OYAKO
-present to the future-



7月の第4日曜日は
親子の日

去る6月6日土曜日に、今年に入ってから4回目の特別上映会が開催された。

上映作品『OYAKO - present to the future -』（イノマタトシ監督）は、米ロサンゼルス出身の写真家ブルース・オズボーン氏が、親子を撮影する活動を追ったドキュメンタリー。

当日は、奥様の井上佳子プロデューサーとお二人にお越しいただき、2回目の上映後にトークイベントにご出演。33年間に渡り撮り続けられた日本の親子についてと、映画を制作することになったエピソードを伺った。

多摩市には、かつてご親戚がお住まいの頃よく通われたというお二人の、明るく柔らかな空気に会場は包まれた。なぜ親子を撮るのかとの問いに、未来と過去を同時に見ることができると感じられる被写体であること、また、撮影を通して自分のことや自分の親のことを考えることができた、とオズボーン氏は語っていた。

この映画は、ある写真展の帰りに「映画を作ろう！」と井上さんが突然ひらめいて始まったプロジェクトとのこと。映画の撮影地である山口県下松市の高校生と震災直後から訪れている東北の釜石の高校生とをつなぐプロジェクトも始まっている。「親子の日などの活動を通して、幸せのこと、平和のこと、感謝のことなどを考える機会をこれからも提供していきたい」という井上さんの言葉で、45分に及ぶトークショーは締めくくられた。

7月の第4日曜に行われている「親子の日」というイベントは、親子が集まって、ワイワイするお祭りのような日があるといい、と始められ、今年で13回目を数えるそうだ。（鈴木かなえ）



ブルース・オズボーン氏（中央）と
井上佳子プロデューサー（右）

TAMA CINEMA FORUM 実行委員 おススメ映画コーナー



『涙するまで、生きる』（ダヴィッド・オールホッフエン監督/2014年）

原作、アルベール・カミュの短編集「客」を大胆に脚色。友情を育んだふたりが選択したそれぞれの道とは...

舞台は、1954年独立戦争前夜のアルジェリア。元軍人のダリュは、人里離れた小さな小学校でフランス語とアラビア語を教えながら暮らしていた。ある日、ダリュの元に、殺人を犯したアラブ人モハメドが連行されてきた。ダリュは、憲兵にモハメドを山の向こうの憲兵所まで連れて行けという命令を受け、ふたりは一緒に山を越えようとする。その間にゲリラとフランス軍の争いに巻き込まれるなど、数々の命の危機にさらされながらも、ふたりの間には人種を超えた友情が生まれていく。

憲兵所へ向かう途中、ダリュはモハメドを解放しようとするが、彼はなぜ裁判で死刑宣告を受けると分かっているながら、それを望んだのか？ それは、アラブには仇討ちというしきたりがあり、家族が殺されていくという負の連鎖がある。そんなモハメドに対して、すべてのしがらみを取り除き、人間としての生きる喜びを訴えたダリュの魂の叫びが、モハメドの心に通じる。また戦後、人との交流を避けていたダリュもモハメドと出会ったことで、彼のために自分が力になることを決断したことに心打たれた。

人は、窮地に立たされた時にも希望を失わず、自分の力で光を見つけ出すことが大切だということをつたふたりの決断から学んだ。私たちにとっても自らの人生を考え直すきっかけにもなる作品ではないだろうか。ダリュを演じたヴィゴ・モーテンセンは、アメリカ人にもかかわらず、フランス語、アラビア語を話し、ふり幅の広さに驚かされた。モハメドを演じたレダ・カテブは、日本での一般的な知名度はあまりないものの出演作すべて味のある演技で作品の質を高めているので、これからも注目していきたい俳優である。

静かな作品ではあるが、ニック・ケイヴの美しい音楽や、荒涼とした山岳地帯、広大な砂漠映像の神秘性が漂い、余韻が残る素晴らしい作品だった。（飯野 紇平）



TAMA CINEMA FORUM 実行委員 **おすすめ映画コーナー**

ここでは実行委員のおすすめ映画を紹介いたします。

『セッション』 (デイミアン・チャゼル監督 /2014年)

ドラムが鳴り響く練習室、生徒を見つめる教師。世界的なジャズ・ドラマーを目指すニーマンは、名門の音楽学校に通い、伝説の鬼教師フレッチャーの楽団にスカウトされる。しかし完璧を求める狂気的なレッスンにより精神を追い詰められていく。

観るのに体力がいる作品だ。主演のマイルズ・テラーはスタントなしでドラム演奏を行ったということもあり、迫力がある。J.K シモンズ演じる鬼コーチの緊張感に、楽団員と共に息を飲む。

原題の「WHIPLASH」はむちで打つことという意味、劇中で使用されている曲名である。この物語の大きな軸と思える。変拍子で難解なこの曲はまさに演奏家泣かせ。この曲のごとく変化していくニーマン。失敗して立ち止まってる暇があったら何としても乗り越えてみせろ。それを乗り越えたものだけが伝説になる、とむちで打たれているようだ。監督は自らの経験からすごい映画を作ってしまった。

学生時代この映画を観ていたら、と思わず考えてしまった。(藤原 ユリ)

『セント・オブ・ウーマン／夢の香り』 (マーティン・ブレスト監督 /1992年)

生きる希望も何もかもを失った盲目の孤独な退役軍人の中佐と学校である問題を抱え人生の選択を迫られている心優しい苦学生の青年が、ひよんなことから旅に出ることから始まるストーリー。

いったいどれだけの人が、人生において起こる様々な誘惑に打ち勝ち、正しい道または信念を貫いていると言えるのだろうか。

青年を守るために、正しい道を進むことがどんなに困難か、そして誘惑に負けず自分の将来のために自分自身や他者を裏切らない行動がいかに高潔で勇気あることを訴える中佐のスピーチに感動し胸が熱くなった。

20年ほど前の作品だが、まだ観たことがない人にお勧めしたい。そして、女好きで盲目だからとやりたい放題で口が悪くて頑固者だけど、本当は優しく紳士でなんだか憎めない中佐役のアル・パチーノの目力ある演技を堪能してほしいと思う。(佐野 桃子)

『ぼんとリンちゃん』 (小林啓一監督 /2014年)

2014年度に公開された映画の中での最高傑作。公開規模は残念ながらそれほど広くはなかったが、最近DVD/BDが発売されたので未見の方はぜひ観ていただきたい。

とある地方都市に暮らすぼん(佐倉絵麻)とリン(高杉真宙)は、アニメやゲームが大好きな幼なじみ。ふたりは、同棲中の彼氏から暴力を振るわれているという親友のみゆちゃん(比嘉梨乃)を連れ戻すために東京へやってきた。モンハンで知り合った42才のべびちゃん(桃月庵白酒)の協力のもと、みゆちゃんの救出に向かうが……。

とにかくぼんちゃんが長回しの映像の中、ひたすら早口でしゃべりまくる。ただその言葉は決して彼女の言葉ではなく、本の中の言葉であったり、ネットの中の言葉であったり、彼女のじいちゃん言葉であったりする。リンちゃんはそんな彼女を絶妙なツッコミを入れながら見守っている。

また、監督の前作『ももいろそらを』に引き続き出演の落語家・桃月庵白酒師匠も、とてもイタくてかわいそうなべびちゃん役で出演している。ぼんちゃんにひたすらいたぶられるべびちゃんを見ているだけでも、いたたまれなくと同時に笑えてくる。

自分を見いだせていない主人公の行動や葛藤は、かつて、またはこれから味わう人生の機微を示しているとも言えよう。

ぼんちゃんのラストのセリフも最高。(吉野 治)

8/29(土)
ベルブホール

みんなの学校

『バベルの学校』に続いて、次回特別上映会は『みんなの学校』（真鍋俊永監督）を上映予定です。どうぞお楽しみに。



お知らせ コーナー

たまシネマ隊募集!

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2015 年 11 月 21 日（土）～ 11 月 29 日（日）に開催予定の第 25 回映画祭 TAMA CINEMA FORUM をサポートするたまシネマ隊を募集します!

たまシネマ隊の募集説明会は 9 月頃から行います。詳細は後日ホームページの方で発表いたします。

支援会員制度のお願い

当映画祭と一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「見る人、見せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願いいたします。

[支援金寄付 個人会員]

一口1000円

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

(ご不明な点はお問い合わせください)

特典①: 映画祭チラシ送付

特典②: 映画祭パンフレット贈呈

特典③: 特別上映会割引(当日料金が半額!

2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

第16回 TAMA NEW WAVE コンペティション作品募集中!

日本映画界に新風を送り込む新しい才能の発見を目的とした中・長編コンペティション、TAMA NEW WAVE は、今年秋開催の第 25 回映画祭 TAMA CINEMA FORUM にて開催される第 16 回 TAMA NEW WAVE コンペティションに向けて、作品募集をしております。

応募方法はホームページにてご確認ください。皆様よりたくさんのご応募をお待ちしております。

<http://www.tamaeiga.org/newwave/>

🐦 @tcf_nw

第25回映画祭TAMA CINEMA FORUM

今年の映画祭は 11 月 21 日（土）から 11 月 29 日（日）までの開催予定です。

現在は映画祭でどんな企画をしようかと案を練っている段階です。今年の映画祭ではどんな映画が上映されて、どんなゲストが来場するのか…。そして今年で第 7 回目を迎える日本で一番早い(!?) TAMA 映画賞はどんな作品・受賞者に贈られるのか。

皆さん、どうぞお楽しみに!

シベ超ニュース

6 月 10 日、新宿シネマカリテで行われていた「カリ・コレ」にて、シベ超の 1 作目が上映されました。シベ超にはたくさんのバージョンがありますが、この日上映されたのは公開時には消されてしまったあの方の名前がスタッフロールに入ったバージョンでした。そして上映終了後には新作『シベリア超特急～ EPISODE 1～』の制作発表が行われました。シベ超新作は本当に制作されるのか。期待して待ちましょう!



TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org

🐦 @tamaeiga (最新情報をフォロー) www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)